



# 釜石大槌地域

## 廃棄物不法投棄通報ネットワーク連絡会議及び合同パトロール

三陸中部森林管理署 事務管理官 佐々木 慎平

令和5年10月31日に、釜石大槌地域廃棄物不法投棄通報ネットワーク連絡会議及び合同パトロールが実施された。

この通報ネットワークは、岩手県や釜石市・大槌町の環境衛生課、釜石海上保安部、南三陸沿岸国道事務所、三陸中部森林管理署で構成されている。連絡会議では各機関等でこれまでの不法投棄の状況と今後の対応を共有した。

合同パトロールでは、釜石市内のあらかじめ決められた現場を視察した。パトロールという一定の区域を巡回して見回るイメージだが、今回は実際に不法投棄されている現場で現状の確認と対策の意見交換を行った。

現地に向かう途中、県道245号沿いに進むと、そこかしこに不法投棄防止対策の看板が目に入ってくる。どれも目立つように赤や黄色の原色を基調としているが、廃棄物と相まって自然の景観を壊しているように感じた。



現地は、駐車場というほど広くはないが、車が数台止められるスペースがある路肩。

車を止めるとすぐ傍に沢があり、上から見下ろすことができる。そこに広がっていたのは私が想像していたよりも、何倍もの量のゴミだった。



空き缶、ペットボトル、食品トレー、ポリタンク、冷蔵庫、洗濯機、etc…。量もさることながら、可燃、不燃、粗大に係わらず、あらゆるゴミが捨てられていた。ゴミがゴミを呼んでしまう負の連鎖、「不法投棄しやすい環境」を目の当たりにした。現地は私有地ということもあり、ゴミは今もそのままである。

対策の意見交換では、注意喚起のための”目立つ”看板や防犯カメラ（ダミーも含む）の設置、定期的なパトロールが挙げられた。

不法投棄を根絶するために、ただ会議や見学するだけでなく、クリーン活動や不法投棄の現状等を広くPRする等、これまでの取組よりもさらに踏み込んだものにする必要がある。

「不法投棄しづらい環境」を作るために、ベンチや街灯を設置したり、雑草を取り除いたりするのも有効ではないだろうか。

あの光景は二度と見たくない。